イ　事業費用

費　用　比　較　（税　抜）

（単位　千円・%）

区分 / 科目	平成３０年度		平成２９年度		増減	対前年度比率
	金額	構成比率	金額	構成比率		
医業費用	**11,579,757**	**98.2**	**11,517,905**	**98.0**	**61,852**	**100.5**
給与費	6,309,813	53.5	6,204,209	52.8	105,604	101.7
材料費	2,431,164	20.6	2,333,727	19.8	97,437	104.2
経費	2,012,523	17.1	1,986,076	16.9	26,447	101.3
減価償却費	757,734	6.4	928,613	7.9	△170,879	81.6
資産減耗費	10,109	0.1	9,010	0.1	1,099	112.2
研究研修費	58,414	0.5	56,270	0.5	2,144	103.8
医業外費用	**103,757**	**0.9**	**120,500**	**1.0**	**△16,743**	**86.1**
支払利息及び企業債取扱諸費	64,720	0.6	77,379	0.7	△12,658	83.6
長期前払消費税償却	36,509	0.3	40,764	0.3	△4,255	89.6
雑損失	2,528	0.0	2,358	0.0	170	107.2
附帯事業費用	**103,701**	**0.9**	**102,728**	**0.9**	**974**	**100.9**
高等看護学院費	103,701	0.9	102,728	0.9	974	100.9
特別損失	**5,616**	**0.0**	**8,263**	**0.1**	**△2,647**	**68.0**
過年度損益修正損	5,616	0.0	8,263	0.1	△2,647	68.0
合計	**11,792,831**	**100.0**	**11,749,396**	**100.0**	**43,435**	**100.4**

事業費用は 117 億 9,283 万 1 千円で、前年度に比べ 4,343 万 5 千円（ 0.4%）の増加となっている。これは、医業外費用で 1,674 万 3 千円（ 13.9%）、特別損失で 264 万 7 千円（ 32.0%）減少したものの、医業費用で 6,185 万 2 千円（ 0.5%）、附帯事業費用で 97 万 4 千円（ 0.9%）増加したことによる。

事業費用の 98.2%を占める医業費用の増加は、減価償却費で 1 億 7,087 万 9 千円（ 18.4%）減少したものの、給与費で 1 億 560 万 4 千円（ 1.7%）、材料費で 9,743 万 7 千円（ 4.2%）、経費で 2,644 万 7 千円（ 1.3%）増加したことなどによる。なお、児童手当等を除く職員給与費の医業収益に対する割合は 56.9%で、前年度に比べ 0.3 ポイント高くなっている。

医業外費用の減少は、企業債の償還が進んでいるため、支払利息及び企業債取扱諸費で 1,265 万 8 千円（ 16.4%）減少したことなどによる。

附帯事業である高等看護学院費用の増加は、手当等で 84 万 3 千円（ 4.2%）増加した

ことなどによる。

特別損失の減少は、過年度損益修正損で 264 万 7 千円（ 32.0%）減少したことによる。過年度損益修正損の主なものは、過年度調定更正減 268 万 1 千円である。

次に、材料費を前年度と比較すると、次表のとおりである。

材　料　費　比　較　（税　抜）

（単位　千円・%）

科目＼区分	平成３０年度	平成２９年度	増　減	対前年度比率
薬　品　費	**1,437,571**	**1,323,153**	**114,418**	**108.6**
投薬薬品	210,289	196,480	13,809	107.0
注射薬品	966,975	866,676	100,300	111.6
その他の薬品	260,307	259,998	309	100.1
診療材料費	**984,206**	**1,001,077**	**△16,870**	**98.3**
医療消耗備品費等	**9,386**	**9,498**	**△112**	**98.8**
合　計	**2,431,164**	**2,333,727**	**97,437**	**104.2**

材料費の増加は、同種同効品への切替や徹底した在庫管理などにより診療材料費で 1,687 万円（ 1.7%）減少したものの、抗がん剤等の高額な薬剤の購入が増えたことにより薬品費の注射薬品で 1 億 30 万円（ 11.6%）増加したことなどによる。

ウ 損　益

損　益　計　算　比　較　（税　抜）

（単位　千円・%）

区　分	平成３０年度	平成２９年度	増　減	対前年度比率
経常収益	**11,843,013**	**11,721,798**	**121,215**	**101.0**
医業収益	11,032,672	10,914,120	118,552	101.1
医業外収益	699,180	697,489	1,692	100.2
附帯事業収入	111,161	110,189	972	100.9
経常費用	**11,787,216**	**11,741,133**	**46,082**	**100.4**
医業費用	11,579,757	11,517,905	61,852	100.5
医業外費用	103,757	120,500	△16,743	86.1
附帯事業費用	103,701	102,728	974	100.9
経常利益（△損失）	**55,797**	**△19,336**	**75,133**	**288.6**
特別損失	**5,616**	**8,263**	**△2,647**	**68.0**
当年度純利益（△損失）	**50,182**	**△27,598**	**77,780**	**181.8**
前年度繰越利益剰余金（△前年度繰越欠損金）	**△350,918**	**△323,320**	**△27,598**	**108.5**
当年度未処分利益剰余金（△当年度未処理欠損金）	**△300,737**	**△350,918**	**50,182**	**85.7**

経常収益は 118 億 4,301 万 3 千円で、前年度に比べ 1 億 2,121 万 5 千円（ 1.0%）の増加となっている。また、経常費用は 117 億 8,721 万 6 千円で、前年度に比べ 4,608 万 2 千円（ 0.4%）の増加となっている。この結果、経常利益は 5,579 万 7 千円となっている。

当年度純利益は、経常利益 5,579 万 7 千円から特別損失 561 万 6 千円を減じた 5,018 万 2 千円となっている。

当年度純利益に前年度繰越欠損金 3 億 5,091 万 8 千円を加えた当年度未処理欠損金は、3 億 73 万 7 千円となっている。

次に収益率について、最近５年の推移をみると、次表のとおりである。

収　　益　　率

（単位　%）

分析項目	算　　式	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	全国平均(29年度)
総収支比率	$\frac{総収益}{総費用}\times100$	100.4	99.8	97.2	102.2	100.6	99.5
経常収支比率	$\frac{経常収益}{経常費用}\times100$	100.5	99.8	97.9	102.2	103.5	99.7
医業収支比率	$\frac{医業収益}{医業費用}\times100$	95.3	94.8	92.6	96.1	97.9	92.8

（注）　全国平均は、「平成２９年度地方公営企業年鑑」の一般病院５００床以上の平均による。

総収支比率は、前年度に比べ 0.6 ポイント高くなっている。この比率は総費用（事業費用）が総収益（事業収益）でどの程度まかなわれているかを示す。

経常収支比率は、前年度に比べ 0.7 ポイント高くなっている。この比率は経常費用が経常収益でどの程度まかなわれているかを示す。

医業収支比率は、前年度に比べ 0.5 ポイント高くなっている。この比率は医業費用が医業収益でどの程度まかなわれているかを示す。

これらの比率は、 100%を超えていれば利益を計上していることを示し、高いほど利益率がよい。

総収支比率、経常収支比率は 100%を超えているものの、医業収支比率は 100%を下回っている。

（P79　審査資料 別表３ 経営分析表参照）

(2) 資本的収支の状況

ア　資本的収入

収　入　比　較（税込）

（単位　千円・%）

区分 / 科目	平成３０年度		平成２９年度		増減	対前年度比率
	金額	構成比率	金額	構成比率		
企業債	100,000	76.2	190,000	46.2	△90,000	52.6
出資金	18,936	14.4	18,936	4.6	0	100.0
負担金	5,000	3.8	5,000	1.2	0	100.0
補助金	7,115	5.4	9,696	2.4	△2,581	73.4
敷金返還金	207	0.2	0	0.0	207	皆増
その他資本的収入	0	0.0	187,820	45.6	△187,820	皆減
合計	**131,258**	**100.0**	**411,452**	**100.0**	**△280,194**	**31.9**

資本的収入額は、前年度に比べ 2億 8,019万 4千円（ 68.1%）の減少となっている。これは、その他資本的収入で 1億 8,782万円（皆減）、企業債で 9,000万円（ 47.4%）減少したことなどによる。

企業債は、医療機器整備に係る 1億円である。

出資金と負担金は、一般会計からの繰入で、企業債償還と医療器械備品の購入に係るものである。

補助金は、国・県補助金の山形県新型インフルエンザ患者対応医療機関設備整備費補助金 444万 2千円、保健衛生施設等施設・設備整備費国庫補助金 267万 3千円である。

イ　資本的支出

支　出　比　較（税込）

（単位　千円・%）

区分 / 科目	平成３０年度		平成２９年度		増減	対前年度比率
	金額	構成比率	金額	構成比率		
建設改良費	224,212	19.5	307,826	25.0	△83,614	72.8
企業債償還金	924,538	80.5	925,436	75.0	△898	99.9
合計	**1,148,750**	**100.0**	**1,233,262**	**100.0**	**△84,511**	**93.1**

資本的支出額は、前年度に比べ 8,451万 1千円（ 6.9%）の減少となっている。これは、建設改良費で 8,361万 4千円（ 27.2%）、企業債償還金で 89万 8千円（ 0.1%）減少したことによる。

建設改良費の主なものは、医療器械備品の購入である。

ウ　収 支 差 引

資本的収入額 1 億 3,125 万 8 千円から資本的支出額 11 億 4,875 万円を差し引いた資本的収支差引不足額は 10 億 1,749 万 2 千円である。これは、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 47 万 3 千円及び過年度分損益勘定留保資金（減価償却費等） 10 億 1,701 万 9 千円で補てんされている。

4 財 政 状 態

(1) 資　　産

資　　産　　比　　較

（単位　千円・%）

区分 / 科目	平成３０年度		平成２９年度		増　減	対前年度比率
	金　額	構成比率	金　額	構成比率		
固定資産	**13,801,591**	**73.8**	**14,392,519**	**74.4**	**△590,928**	**95.9**
有形固定資産	10,308,312	55.1	10,846,136	56.1	△537,825	95.0
無形固定資産	92,718	0.5	123,624	0.6	△30,906	75.0
投資その他の資産	3,400,562	18.2	3,422,759	17.7	△22,197	99.4
長期貸付金	3,320,000	17.8	3,320,000	17.2	0	100.0
長期前払消費税	80,562	0.4	102,759	0.5	△22,197	78.4
流動資産	**4,913,752**	**26.2**	**4,928,747**	**25.6**	**△14,995**	**99.7**
現金預金	3,113,177	16.6	2,967,294	15.4	145,883	104.9
未収金	1,759,188	9.4	1,908,420	9.9	△149,232	92.2
貯蔵品	38,236	0.2	50,054	0.3	△11,818	76.4
前払金	1,329	0.0	950	0.0	379	140.0
預け金	1,822	0.0	1,822	0.0	0	100.0
その他流動資産	0	0.0	207	0.0	△207	皆減
資産合計	**18,715,343**	**100.0**	**19,321,266**	**100.0**	**△605,923**	**96.9**

資産合計は、前年度に比べ 6億 592万 3千円（ 3.1%）減少し、 187億 1,534万 3千円となっている。これは、固定資産で 5億 9,092万 8千円（ 4.1%）、流動資産で 1,499万 5千円（ 0.3%）減少したことによる。

固定資産のうち有形固定資産で増加した主なものは、次のとおりである。

器械備品	腹腔鏡手術システム	2,407万円
	白内障手術装置	2,280万円
	負荷心電図検査装置	918万円
リース資産	経鼻内視鏡システム	1,495万 7千円

一方、減少した主なものは、器械備品の除却 1,000万 7千円、減価償却 7億 2,682万 8千円である。

無形固定資産で減少したものは、電子カルテ総合医療情報システム（ソフトウェア）の減価償却 3,090万 6千円である。

投資その他の資産で減少したものは、長期前払消費税 2,219万 7千円である。

流動資産の減少は、現金預金で 1 億 4,588 万 3 千円（ 4.9%）増加したものの、未収金で 1 億 4,923 万 2 千円（ 7.8%）、貯蔵品で 1,181 万 8 千円（ 23.6%）減少したことなどによる。

次に、未収金については、次表のとおりである。

未　収　金　比　較

（単位　千円・%）

科目＼区分	平成３０年度	平成２９年度	増　減	対前年度比率
医業未収金	**1,736,055**	**1,860,475**	**△124,420**	**93.3**
入院収入	1,296,795	1,426,482	△129,687	90.9
外来収入	422,459	423,577	△1,118	99.7
公衆衛生活動収入	13,569	7,026	6,544	193.1
医療相談収入	2,604	2,502	102	104.1
その他医業収入	628	889	△260	70.7
医業外未収金	**29,190**	**54,100**	**△24,910**	**54.0**
補助金（3条）	10,238	8,644	1,594	118.4
負担金	1,306	23,801	△22,495	5.5
その他医業外収入	13,456	11,659	1,797	115.4
補助金（附帯）	0	42	△42	皆減
その他資本的収入	0	7,820	△7,820	皆減
厚生福利費戻入	4,190	2,133	2,056	196.4
貸倒引当金	**△6,057**	**△6,155**	**98**	**98.4**
合　計	**1,759,188**	**1,908,420**	**△149,232**	**92.2**

流動資産のうち未収金は 17 億 5,918 万 8 千円で、前年度に比べ 1 億 4,923 万 2 千円（ 7.8%）の減少となっている。これは、医業未収金で 1 億 2,442 万円（ 6.7%）、医業外未収金で 2,491 万円（ 46.0%）減少したことなどによる。

貸倒引当金は、債権の不納欠損による損失に備えるため、回収不能見込額を計上している。

次に、医業未収金については、次表のとおりである。

医　業　未　収　金　比　較

（単位　件・千円・％）

区　分		平成３０年度		平成２９年度		増　減		
		件　数	金　額	件　数	金　額	件　数	金　額	対前年度比率
現年度医業未収金		3,008	1,675,248	2,735	1,797,688	273	△122,439	93.2
	給付団体	23	1,584,474	25	1,706,217	△2	△121,744	92.9
	個　　人	2,985	90,775	2,710	91,470	275	△695	99.2
過年度医業未収金		2,583	60,807	2,628	62,788	△45	△1,981	96.8
	個　　人	2,583	60,807	2,628	62,788	△45	△1,981	96.8
合　　計		**5,591**	**1,736,055**	**5,363**	**1,860,475**	**228**	**△124,420**	**93.3**
	給付団体	**23**	**1,584,474**	**25**	**1,706,217**	**△2**	**△121,744**	**92.9**
	個　　人	**5,568**	**151,581**	**5,338**	**154,258**	**230**	**△2,676**	**98.3**

現年度医業未収金の大半は、給付団体から２か月遅れで収納されるものである。

(2) 負債・資本

負　債　・　資　本　比　較

（単位　千円・%）

区分 / 科目	平成３０年度		平成２９年度		増　減	対前年度比率
	金　額	構成比率	金　額	構成比率		
固定負債	**3,298,936**	**17.6**	**4,021,833**	**20.8**	**△722,897**	**82.0**
企業債	2,095,689	11.2	2,924,170	15.1	△828,481	71.7
建設改良費等の財源に充てるための企業債	2,095,689	11.2	2,924,170	15.1	△828,481	71.7
引当金	1,161,058	6.2	1,044,478	5.4	116,580	111.2
退職給付引当金	1,161,058	6.2	1,044,478	5.4	116,580	111.2
リース債務	42,189	0.2	53,185	0.3	△10,996	79.3
流動負債	**2,176,342**	**11.7**	**2,099,894**	**10.9**	**76,448**	**103.6**
企業債	928,481	5.0	924,538	4.8	3,943	100.4
建設改良費等の財源に充てるための企業債	928,481	5.0	924,538	4.8	3,943	100.4
未払金	784,823	4.2	746,667	3.9	38,156	105.1
医業未払金	634,246	3.4	605,359	3.2	28,888	104.8
その他未払金	150,576	0.8	141,309	0.7	9,268	106.6
引当金	385,847	2.1	355,040	1.8	30,807	108.7
賞与引当金	385,847	2.1	355,040	1.8	30,807	108.7
預り金	51,653	0.3	50,604	0.3	1,049	102.1
リース債務	25,538	0.1	23,045	0.1	2,493	110.8
繰延収益	**767,139**	**4.1**	**795,730**	**4.1**	**△28,591**	**96.4**
長期前受金	3,009,274	16.1	3,054,904	15.8	△45,630	98.5
長期前受金収益化累計額	△2,242,135	△12.0	△2,259,173	△11.7	17,039	99.2
負債合計	**6,242,416**	**33.4**	**6,917,457**	**35.8**	**△675,041**	**90.2**
資本金	**10,420,609**	**55.6**	**10,401,673**	**53.8**	**18,936**	**100.2**
剰余金	**2,052,318**	**11.0**	**2,002,136**	**10.4**	**50,182**	**102.5**
資本剰余金	444,710	2.4	444,710	2.3	0	100.0
利益剰余金	1,607,608	8.6	1,557,426	8.1	50,182	103.2
（うち当年度未処分利益剰余金・△当年度未処理欠損金）	(△300,737)	(△1.6)	(△350,918)	(△1.8)	(50,182)	(85.7)
資本合計	**12,472,927**	**66.6**	**12,403,810**	**64.2**	**69,118**	**100.6**
負債資本合計	**18,715,343**	**100.0**	**19,321,266**	**100.0**	**△605,923**	**96.9**

ア　負　　債

負債合計は 62 億 4,241 万 6 千円で、前年度に比べ 6 億 7,504 万 1 千円（ 9.8%）の減少となっている。これは、流動負債で 7,644 万 8 千円（ 3.6%）増加したものの、固定負債で 7 億 2,289 万 7 千円（ 18.0%）、繰延収益で 2,859 万 1 千円（ 3.6%）減少したことによる。固定負債の減少は企業債の償還が進んでいることによるものである。

企業債は、当年度に 9 億 2,453 万 8 千円の元金償還をし、新たに 1 億円を借り入れたため、固定負債と流動負債を合わせた当年度末の未償還残高は 8 億 2,453 万 8 千円 （ 21.4%）減少し、 30 億 2,417 万円となっている。

繰延収益のうち長期前受金の内訳は、負担金 14 億 9,712 万 3 千円、補助金 14 億 7,403 万 6 千円、受贈財産評価額 3,811 万 5 千円となっており、長期前受金収益化累計額の内訳は、負担金 13 億 6,718 万 4 千円、補助金 8 億 3,950 万 4 千円、受贈財産評価額 3,544 万 7 千円となっている。

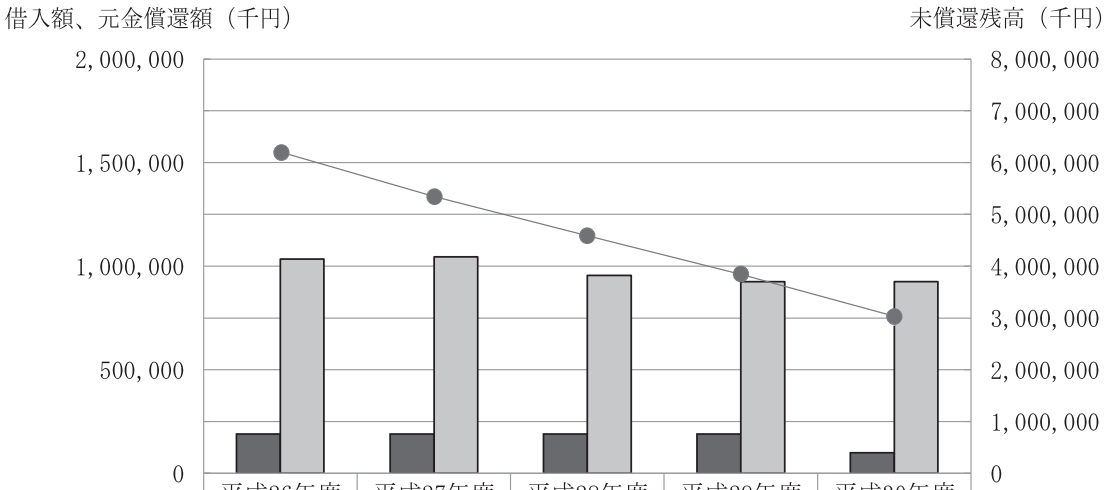
イ　資　　本

資本合計は 124 億 7,292 万 7 千円で、前年度に比べ 6,911 万 8 千円（ 0.6%）の増加となっている。これは、剰余金で 5,018 万 2 千円（ 2.5%）、資本金で 1,893 万 6 千円（ 0.2%）増加したことによる。剰余金の増加は、利益剰余金が増加したことによる。

資本剰余金の内訳は、受贈財産評価額 4 億 3,471 万円、寄附金 1,000 万円となっており、利益剰余金の内訳は、建設改良積立金 18 億 9,254 万 5 千円、当年度未処理欠損金 3 億 73 万 7 千円、減債積立金 1,580 万円となっている。

企業債借入額、元金償還額及び未償還残高について、最近５年間の推移をみると、次表のとおりである。

企業債借入額、元金償還額及び未償還残高の推移



	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
借入額	190,000	190,000	190,000	190,000	100,000
元金償還額	1,034,129	1,045,444	954,408	925,436	924,538
未償還残高	6,203,995	5,348,551	4,584,143	3,848,707	3,024,170

(3) 経営分析に係る諸比率

経　営　分　析　表

（単位　%・回）

区分	分析項目	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	全国平均(29年度)
構成比率	固定資産構成比率	73.7	74.5	76.7	76.5	75.8	76.4
	自己資本構成比率	70.7	68.3	66.5	65.1	63.3	28.1
財務比率	固定比率	104.2	109.0	115.3	117.5	119.8	271.6
	固定資産対長期資本比率（長期適合率）	83.4	83.6	85.7	85.1	84.3	88.9
	流動比率	225.8	234.7	220.8	233.7	241.0	167.8
	当座比率	224.2	232.5	218.5	231.4	238.4	162.8
回転率	固定資産回転率	0.78	0.74	0.67	0.66	0.60	0.71

（注）　全国平均は、「平成２９年度地方公営企業年鑑」の総平均による。

固定資産構成比率は、前年度に比べ 0.8 ポイント低くなっている。この比率は資産合計に占める固定資産の割合を示し、低いほうが柔軟な経営が可能となる。

自己資本構成比率は、前年度に比べ 2.4 ポイント高くなっている。この比率は負債・資本合計に占める資本金、剰余金と繰延収益の割合を示し、高いほうが経営の安定化が図られる。

固定比率は、前年度に比べ 4.8 ポイント低くなっている。この比率は固定資産が資本金、剰余金と繰延収益でどの程度まかなわれているかを示す。固定資産対長期資本比率は、前年度に比べ 0.2 ポイント低くなっている。この比率は固定資産が資本金、剰余金、固定負債と繰延収益の合計額以内でまかなわれているかを示す。ともに 100%以下が望ましいとされているが、固定比率は 100%を超えているものの、固定資産対長期資本比率は 100%を下回っている。

流動比率は、前年度に比べ 8.9 ポイント低くなっている。この比率は流動資産と流動負債との対比で１年以内の支払能力を示す。当座比率は、前年度に比べ 8.3 ポイント低くなっている。この比率は流動資産のうち現金及び預金、未収金といった当座資産と流動負債との対比で１年以内の支払能力を示す。それぞれ望ましいとされる、流動比率 200%以上、当座比率 100%以上をともに上回っている。

固定資産回転率は、前年度に比べ 0.04 回大きくなっている。この比率は固定資産の利用度を示し、数値は大きいほど施設（固定資産）がより有効に稼働していることを表す。

（P79　審査資料 別表３ 経営分析表参照）

5　資 金 の 状 況

(1) キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー計算書〈間接法〉

（単位　千円）

区　分	平成３０年度	平成２９年度	増　減
1　業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益（△は純損失）	50,182	△27,598	77,780
減価償却費	757,734	928,613	△170,879
固定資産除却費	10,097	9,010	1,087
長期前払消費税償却	36,509	40,764	△4,255
長期前受金戻入額	△40,695	△45,079	4,384
引当金の増減額（△は減少）	147,387	240,362	△92,975
受取利息及び受取配当金	△2,827	△2,681	△146
支払利息	64,720	77,379	△12,658
未収金の増減額（△は増加）	149,330	△243,440	392,770
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△98	333	△431
たな卸資産の増減額（△は増加）	11,818	396	11,422
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△172	0	△172
未払金の増減額（△は減少）	38,156	△36,219	74,375
その他の流動負債の増減額（△は減少）	1,049	1,984	△935
その他の事業費	1,813	1,596	217
小計	1,225,002	945,419	279,583
利息及び配当金の受取額	2,827	2,681	146
利息の支払額	△64,720	△77,379	12,658
業務活動によるキャッシュ・フロー	**1,163,109**	**870,721**	**292,387**
2　投資活動によるキャッシュ・フロー			
固定資産の取得による支出	△223,739	△307,144	83,405
国庫補助金等の収入	7,115	9,696	△2,581
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	18,936	18,936	0
負担金による収入	5,000	5,000	0
長期貸付金の償還による収入	0	180,000	△180,000
一般会計からの委任事務による収入	0	7,820	△7,820
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△192,688**	**△85,692**	**△106,996**
3　財務活動によるキャッシュ・フロー			
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	100,000	190,000	△90,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△924,538	△925,436	898
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△824,538**	**△735,436**	**△89,102**
資金の増加額（又は減少額）	**145,883**	**49,593**	**96,290**
資金期首残高	**2,967,294**	**2,917,701**	**49,593**
資金期末残高	**3,113,177**	**2,967,294**	**145,883**

業務活動によるキャッシュ・フローは、 11 億 6,310 万 9 千円のプラスとなっている。

投資活動によるキャッシュ・フローは、 1 億 9,268 万 8 千円のマイナスとなっている。

財務活動によるキャッシュ・フローは、 8 億 2,453 万 8 千円のマイナスとなっている。

この結果、当年度の資金は 1 億 4,588 万 3 千円の増加となっており、資金期末残高は 31 億 1,317 万 7 千円となっている。

業務活動により生み出された資金は、投資活動における固定資産の取得による支出（医療機器の購入）、財務活動における建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出に充てられているといえる。

審　査　資　料

別表１

予算決算対照表（税込）

１　収益的収入及び支出

（単位　千円・％）

区分		予算額	決算額	差引増減又は不用額	執行率
収入	１　病院事業収益	12,884,734	11,867,630	△1,017,104	92.1
	(1) 医業収益	12,082,656	11,054,328	△1,028,328	91.5
	(2) 医業外収益	690,725	702,137	11,412	101.7
	(3) 附帯事業収入	111,353	111,165	△188	99.8
支出	１　病院事業費用	12,884,631	11,799,190	1,085,441	91.6
	(1) 医業費用	12,634,428	11,586,060	1,048,368	91.7
	(2) 医業外費用	124,672	103,757	20,915	83.2
	(3) 附帯事業費用	111,353	103,757	7,596	93.2
	(4) 特別損失	4,178	5,616	△1,438	134.4
	(5) 予備費	10,000	0	10,000	0.0
収益的収支差引額		103	68,440		

２　資本的収入及び支出

（単位　千円・％）

区分		予算額	決算額	差引増減又は不用額	執行率
収入	１　資本的収入	125,258	131,258	6,000	104.8
	(1) 企業債	100,000	100,000	0	100.0
	(2) 出資金	18,936	18,936	0	100.0
	(3) 負担金	5,000	5,000	0	100.0
	(4) 補助金	1,000	7,115	6,115	711.5
	(5) 敷金返還金	222	207	△15	93.2
	(6) その他資本的収入	100	0	△100	0.0
支出	１　資本的支出	1,150,427	1,148,750	1,677	99.9
	(1) 建設改良費	224,889	224,212	677	99.7
	(2) 企業債償還金	924,538	924,538	0	100.0
	(3) 予備費	1,000	0	1,000	0.0
資本的収支差引額		△1,025,169	△1,017,492		

資本的収支差引不足額の補てん財源

当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額　473

過年度分損益勘定留保資金　1,017,019

別表２

科別入院、外来収益及び患者数比較表（税抜）

（単位　千円・人・％）

科名	年度	平成３０年度		平成２９年度		増減		対前年度比率	
	区分	収入	年延患者数	収入	年延患者数	収入	年延患者数	収入	年延患者数
消化器内科	入院	872,729	19,507	847,207	19,785	25,522	△ 278	103.0	98.6
	外来	408,876	18,233	382,178	17,447	26,698	786	107.0	104.5
	計	1,281,605	37,740	1,229,385	37,232	52,220	508	104.2	101.4
呼吸器内科	入院	814,013	19,190	754,355	18,376	59,658	814	107.9	104.4
	外来	180,789	8,629	149,933	8,017	30,857	612	120.6	107.6
	計	994,802	27,819	904,287	26,393	90,515	1,426	110.0	105.4
循環器内科	入院	566,707	9,372	522,266	8,373	44,441	999	108.5	111.9
	外来	76,533	8,525	70,067	8,281	6,465	244	109.2	102.9
	計	643,240	17,897	592,333	16,654	50,907	1,243	108.6	107.5
内科	入院	669,771	14,116	742,927	16,405	△ 73,155	△ 2,289	90.2	86.0
	外来	766,330	32,040	748,647	31,593	17,683	447	102.4	101.4
	計	1,436,101	46,156	1,491,573	47,998	△ 55,472	△ 1,842	96.3	96.2
精神科	入院	－	－	－	－	－	－	－	－
	外来	0	0	0	0	0	0	－	－
	計	0	0	0	0	0	0	－	－
脳神経内科	入院	374,298	8,987	394,877	9,562	△ 20,579	△ 575	94.8	94.0
	外来	70,650	5,974	70,135	5,842	515	132	100.7	102.3
	計	444,949	14,961	465,012	15,404	△ 20,064	△ 443	95.7	97.1
小児科	入院	432,136	8,734	403,187	8,489	28,948	245	107.2	102.9
	外来	140,222	10,588	122,834	10,082	17,387	506	114.2	105.0
	計	572,357	19,322	526,022	18,571	46,336	751	108.8	104.0
外科	入院	880,567	13,508	894,280	14,562	△ 13,713	△ 1,054	98.5	92.8
	外来	248,173	12,815	237,101	12,816	11,072	△ 1	104.7	100.0
	計	1,128,740	26,323	1,131,381	27,378	△ 2,641	△ 1,055	99.8	96.1
整形外科	入院	475,060	9,333	641,825	14,472	△ 166,765	△ 5,139	74.0	64.5
	外来	80,285	11,244	85,862	12,193	△ 5,577	△ 949	93.5	92.2
	計	555,344	20,577	727,687	26,665	△ 172,343	△ 6,088	76.3	77.2
脳神経外科	入院	1,308,532	21,227	1,307,589	20,904	943	323	100.1	101.5
	外来	137,183	9,785	136,763	9,897	419	△ 112	100.3	98.9
	計	1,445,715	31,012	1,444,352	30,801	1,363	211	100.1	100.7
皮膚科	入院	107,734	2,881	59,398	1,744	48,337	1,137	181.4	165.2
	外来	69,478	12,805	65,655	12,674	3,822	131	105.8	101.0
	計	177,212	15,686	125,053	14,418	52,159	1,268	141.7	108.8

（単位　千円・人・％）

科名	年度	平成３０年度		平成２９年度		増　　減		対前年度比率	
	区分	収　　入	年延患者数	収　　入	年延患者数	収　　入	年延患者数	収　　入	年延患者数
泌尿器科	入院	361,111	6,972	363,106	7,041	△ 1,995	△ 69	99.5	99.0
	外来	255,880	13,769	238,574	13,043	17,306	726	107.3	105.6
	計	616,991	20,741	601,680	20,084	15,311	657	102.5	103.3
産婦人科	入院	278,224	5,419	288,424	5,889	△ 10,200	△ 470	96.5	92.0
	外来	51,665	10,306	50,608	10,707	1,056	△ 401	102.1	96.3
	計	329,888	15,725	339,032	16,596	△ 9,144	△ 871	97.3	94.8
眼　　科	入院	170,255	2,775	176,308	3,093	△ 6,053	△ 318	96.6	89.7
	外来	114,764	12,806	118,260	14,281	△ 3,496	△ 1,475	97.0	89.7
	計	285,019	15,581	294,568	17,374	△ 9,549	△ 1,793	96.8	89.7
耳鼻咽喉・頭頸部外科	入院	278,112	5,167	240,736	4,557	37,376	610	115.5	113.4
	外来	105,073	11,214	76,139	10,087	28,934	1,127	138.0	111.2
	計	383,185	16,381	316,875	14,644	66,309	1,737	120.9	111.9
放射線科	入院	－	－	－	－	－	－	－	－
	外来	95,410	3,985	103,087	4,345	△ 7,678	△ 360	92.6	91.7
	計	95,410	3,985	103,087	4,345	△ 7,678	△ 360	92.6	91.7
麻 酔 科	入院	－	－	－	－	－	－	－	－
	外来	0	0	0	0	0	0	－	－
	計	0	0	0	0	0	0	－	－
歯　　科	入院	12,552	191	10,313	197	2,239	△ 6	121.7	97.0
	外来	29,523	4,369	27,601	4,305	1,922	64	107.0	101.5
	計	42,075	4,560	37,914	4,502	4,161	58	111.0	101.3
入 院 計		7,601,802	147,379	7,646,798	153,449	△ 44,996	△ 6,070	99.4	96.0
外 来 計		2,830,831	187,087	2,683,445	185,610	147,386	1,477	105.5	100.8
合　　計		10,432,633	334,466	10,330,243	339,059	102,390	△ 4,593	101.0	98.6

別表３

経　営　分　析　表

区分	分析項目	算式	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	全国平均(29年度)	説明
構成比率	固定資産構成比率	固定資産／資産合計 ×100 資産合計＝固定資産＋流動資産	% 73.7	% 74.5	% 76.7	% 76.5	% 75.8	% 76.4	資産合計のうち固定資産の占める割合をみる。 数値が小さいほどよい。
	自己資本構成比率	資本金＋剰余金＋繰延収益／負債・資本合計 ×100	70.7	68.3	66.5	65.1	63.3	28.1	負債・資本合計のうち資本金、剰余金と繰延収益の占める割合をみる。 数値が大きいほどよい。
財務比率	固定比率	固定資産／資本金＋剰余金＋繰延収益 ×100	104.2	109.0	115.3	117.5	119.8	271.6	資本金、剰余金と繰延収益で、固定資産をどの程度まかなっているかをみる。 公営企業では大となる。 100%以下が望ましい。 数値が小さいほどよい。
	固定資産対長期資本比率(長期適合率)	固定資産／資本金＋剰余金＋固定負債＋繰延収益 ×100	83.4	83.6	85.7	85.1	84.3	88.9	固定資産が資本金、剰余金、固定負債と繰延収益の範囲内か否かをみる。 100%以下が望ましい。 数値が小さいほどよい。
	流動比率	流動資産／流動負債 ×100	225.8	234.7	220.8	233.7	241.0	167.8	１年以内に現金化できる資産と１年以内に支払わねばならない負債との対比で支払い能力をみる。 200%以上が望ましい。 数値が大きいほどよい。
	当座比率	現金預金＋(未収金-貸倒引当金)／流動負債 ×100	224.2	232.5	218.5	231.4	238.4	162.8	当座資産（現金預金、貸倒引当金を除く未収金）と流動負債との対比で支払能力をみる。 100%以上が望ましい。 数値が大きいほどよい。
回転率	固定資産回転率	医業収益／(期首固定資産＋期末固定資産)／2	回 0.78	回 0.74	回 0.67	回 0.66	回 0.60	回 0.71	固定資産の利用度をみる。 数値が大きいほどよい。
	総資本回転率	医業収益／(期首総資本＋期末総資本)／2 総資本＝負債+資本	0.58	0.56	0.51	0.51	0.46	－	総資本の利用度をみる。 数値が大きいほどよい。

区分	分析項目	算式	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	全国平均(29年度)	説明
回転率	現金預金回転率	当年度支出額 / 平均現金預金	回 6.20	回 6.48	回 6.61	回 6.22	回 5.32	回 -	現金預金の利用度をみる。数値が大きいほど現金預金の保有高が経営規模に比して小さい。
	貯蔵品回転率	貯蔵品使用高 / 平均貯蔵品	30.8	24.7	23.6	21.3	20.4	-	貯蔵品を使用し、これを補充する速度をみる。数値が大きいほどよい。
収益率	総収支比率	総収益 / 総費用 ×100	% 100.4	% 99.8	% 97.2	% 102.2	% 100.6	% 99.5	総収益と総費用の総体的な関連を示す。数値が大きいほどよい。
	経常収支比率	経常収益 / 経常費用 ×100	100.5	99.8	97.9	102.2	103.5	99.7	収益と費用の経常的な関連を示す。数値が大きいほどよい。
	医業収支比率	医業収益 / 医業費用 ×100	95.3	94.8	92.6	96.1	97.9	92.8	営業活動の能率を示す。数値が大きいほどよい。
その他	病床利用率	年延入院患者数 / 年延病床数 ×100	77.1	80.2	73.3	73.3	75.8	80.5	病床の利用状況をみるもので、経営状況をみる最も基本的な数値
	患者1人1日当たり(診療収入)	診療収入 / 年延患者数	円 31,192	円 30,467	円 29,337	円 28,875	円 27,179	円 34,964	病院経営の基本的な指数
	(入院)	入院収益 / 年延入院患者数	51,580	49,833	48,485	48,579	46,058	62,124	
	(外来)	外来収益 / 年延外来患者数	15,131	14,457	13,818	13,136	12,305	17,665	

(注) 全国平均は、「平成２９年度地方公営企業年鑑」の総平均による。
ただし、収益率、病床利用率及び患者１人１日当たり診療収入については、同年鑑の一般病院５００床以上の平均による。
(平成３０年度は未発表)